

川柳しませんか

長谷川博子（高校十九期）

★川柳の歴史、成り立ち

十八世紀半ば頃、浅草に前付けという川柳の元祖らしきものの点者（選者）として柄井八右衛門が、号を川柳と称して登場しました。これが世界的にも例を見ない、人の名前のついた文芸です。「木枯らしや跡で芽をふけ川柳」が柄井川柳の辞世の句と伝えられています。柄井川柳の選んだ作品を編集し出版したのが「誹風柳多留」で、この本が世に出たから今年は二五〇年になります。

川柳が盛んだったのは江戸時代中期～後期ですが、現在のように五・七・五のスッキリした定型ではありません。まず「俳諧・連歌」があり、後の川柳も俳句も、この俳諧から生まれた文芸です。

俳諧の前付けというのは、たとえば五・七・五の前句を出題して、それに関連した意味の五・七・五の付け句を作るのです。前句「切りたくもあり切りたくもなし」という出題に対しては「盗人を捕えてみればわが子なり」という付け句が作られています。そのうちこの前句がだんだん省略され、付け句が独立して、今の形のような川柳となったのです。

★川柳とは、人間や物事などすべてのものを対象にして、喜怒哀楽の感情を五・七・五の短い文にしたものです。

這えば立て立てば歩めの親心

色男金と力はなかりけり

これらは一般的なことわざや言い伝えと思われがちですが、江戸時代の川柳なのです。古川柳として知られている句には次のような作品もあります。

いとこへ来たと背高使われる

本降りになって出ていく雨宿り

やれ嬉し隣の蔵が売れてゆく

泣く泣くもよいほうを取る形見分け

役人の子はにぎにぎをよく覚え

★難しい取り決めなど少ない川柳ですが、五・七・五の十七音字が基本とされています。

「人間の句いの中でさくら咲く」（博子）

○人間の・・・五音字・上五

○句いの中で・・・七音字・中七

○さくら咲く・・・五音字・下五

「音字」というのは句をすべて仮名に置き換えて数える、いわば発音の数です。この十七音字を川柳の「定型」といいます。

「字余り」・・・定型を外れて音字数が多い。

「字足らず」・・・定型を外れて音字数が少ない。

「破調」・・・音字数が揃わず、リズムが整っていない。

一般的に定型を外れやすいのは、中八音字や下六音字になった時で、そうなるとうのリズムが損なわれがちになります。

★音字数の数え方

促音・詰まる音で、表記は小さい「っ」。それ自体を一音字として数える。

（例）去って（三音字） 放って（四音字）

拗音・「きぎしじぢぢにひびみり」の、それぞれに小さい「ゃ」「ゆ」「よ」がついた音

で、表記は二字だが、音字数は一音に数える。

（例）茶（一音字） ちようちよう（四音字）

長音・「う」「ー」のように長く引き伸ばして発する音でそれ自体を一音字として数える。

（例）弟（四音字） ハーモニカ（五音字）

撥音・おしまいの「ん」で表記される音で、それ自体を一音字に数える。

（例）瓶（二音字） 金屏風（五音字）

★川柳におけるタブー

差別用語は使わない。人や物事を誹謗中傷する句も作らない。

★句の書き方・・・出句や投句をする際、新聞や雑誌の柳壇等はハガキや所定の用紙に、句会では句箋に書きます。

① 五・七・五の字と字の間は空けずに、一句を続けて書く。

② 句の頭に「一」等の番号、句の間や終わりに「、」「。」等の句読点、感嘆符「！」、疑問符「？」等の符号や記号は原則として使わない。

③ 漢字にルビをつけない。

④ 筆記用具は限定されていないが、句箋に書く時は鉛筆を使うことが多い。鉛筆はB以上の濃いものを使うのが好ましい。

⑤ 文字は楷書で明瞭に書くこと。

★さて、「虫食い川柳」、頭の体操です。

(出題句はすべて長谷川博子作)

○の所に入る文字を考えてみて下さい。答は()の中に示す。

例題

- ① 城下町お辞儀たくさんして○く (歩)
- ② ○を武器に愉快な立てこもり(エンピツ)
- ③ 詫び状の空気は少し○いて書く (抜)
- ④ 逆らわず○になって転がろう (南瓜)
- ⑤ 大物は出雲○でやって来る (時間)

飴ちゃんの魔法が○いてから多忙 (効)

行間のドキドキが好き○が好き (歌)

ジョーカーを隠して姫も○に行く (嫁)

風よけに手頃な○やって来た (男)

お互いにルール違反もして○ (夫婦)

包丁も○も便利よく使う (亭主)

ママチャリの颯爽感は○だろう (愛)

母の血を辿れば小さな漁師○ (町)

お見舞いのメロンよそよそしい○さ (甘)

ライオンが滑った誰も○を貸さぬ (手)

雪の○黙って歩くほかはなし (朝)

いざというときの○は十個ある (卵)

おにぎりは○の途中で食っちゃまえ (坂)

一日を餃子の○に包み込む (皮)

守秘義務を忘れてしまう○である (舌)

主語のない○に持続性がある (話)

夕焼けはあすの予定と○ばれた (結)

★母の日は母を探しに集まろう

本めくる時に生まれる風が好き
手で掬う水幸せもこれくらい

(博子)



(文責・出川弓子) △高校二十期▽
(写真提供・松浦良光) △高校二十一期▽

お知らせ……

会の終わりには出席者で川柳を作ってみました。

来年の会報に入選句(長谷川博子選)を発表したいと思いますので、お楽しみに。